スライド1

台湾の自立生活運動

林君潔

リンチュンチェ

スライド2

自己紹介

１、出身：台湾台北市

２、2人妹。5人家族。

３、7歳就学拒否。8歳一般小学校入学。11歳日本へ就医失敗。18歳

台北大学司法学部入学。２２歳大卒。23歳ダスキンの研修に参加。

2７歳台湾で始めての自立生活センター設立

４、母の24時間介護～自立～社会を変える

スライド3

台湾

１、面積：3.6万m2 人口：2千3百万人

２、障害者：4.95％ 約116万人

３、約95％地域にいる。施設にいる人少ない

４、1971年国連から退出

5、１９８０年残障福利法成立（現在：身心障害権益保障法）

６、２０１４年CRPDが国内法になった

２０１１年自立生活の制度できた

スライド4

就学

バリアフリー

就職

台湾障害者運動

生活保障

スライド5

街なかのバリアフリーの様子の写真（バス、タクシーなど）

スライド6

2007年に設立

台北市新活力自立生活センター

特徴：

１、当事者団体。運営委員５１％以上は障害者当事者。

２、障害種別を越えている

３、地域で自立のためサービスを提供する。

仕事内容：

１．権利擁護／政策提言

２．自立生活プログラム

３．ピアサポート

４．介助サービス

５．地域教育

６．国際協力

サービスと社会運動を行っている

今、中心やってること：(１)障害者権利条約を実施する事(２)次世帯リーダーを育成すること

(３)各地センター連携する事

スライド7

写真：デモや会議の様子

スライド8

出版品：本、ビデオ

新聞や特集

スライド9

エンパワー活動、権利擁護

自立生活の理念を広げる活動

2005年

仲間集め

2007年

台湾での初めての自立生活センター設立

2009年

モデル事業

2011年

自立生活制度成立

2012年～現在

各地自立生活センター設立

サービス

スライド10

１、今台湾では５つ自立生活センターあります。台北、花蓮、高雄、台南、嘉義。

２、２０１８年４月１日に台湾身心障害者自立生活連盟立ち上がった。

スライド11

課題

一団になって政府や社会に影響力を拡

大しなければならないが….

１、各地の協会の障害者いろんな大変な環境：バリアだらけや生活費の問題を克服しながら

運動をしてます。できない事ばっかり見てます。

２、各地の環境の差と障害者や仲間お互いの差が大きいです。

３、各地団体のコミュニケーションとプラン作る能力が低い

スライド12

２０１８年３月のＷＳ

１．各地の自立生活協会のメンバー、２８人参加しました。

２．各地自立生活協会の運営概況と実績を発表しました。

各団体の大変なところやよくできたことを共有した。

３．一般の人に簡単に自分の団体の業務や主旨目標を紹介する。各協会は自立生活の理念と方向を確認できた。

４．過去一年間の業務や効果を振り返る。各団体やってた

事をまとめて視覚化になった。沢山ことできたと分かっ

た。

スライド13

写真：ワークショップの写真、会議の様子など

スライド14

各団体のメンバーに影響したこと

1.自分が団体の中での役割が確認できた。

2.前より主動的に仕事の担当役になる、責任を取るようになった

3.前より主動的に団体の活動に参加する、一緒に企画を作る。

４.内部メンバーのコミュニケーションが前より良くなっ

た。

５.外部の人にセンターの紹介をもっとうまくできるように

なった。

６．もっと自分のことを信じるようになった。

7.いいことや大変なこと、いろんな経験を共有して各団体の関係もっと強く/良くなった。

スライド15

２０１７年と２０１８年のＷＳに参加して、自分の影響

１、いろんな障害の人とチームワークすることを大事する。

２、仕事内容を細かくほかの人に伝えること。

３、忙しくても仲間の考え方や気持ちを確認する事

４、難しい事を簡単に説明するのが大事だと分かりました。

５、事業計画やアクションプラン前よりうまく作ること。

６、いろんな分野の人と自立生活のことを紹介することを練習する。

スライド16

ありがとうございました！